柳井日日新聞
(昭和36年5月6日第三種郵便物認可) 県政滝町クラブ加盟社

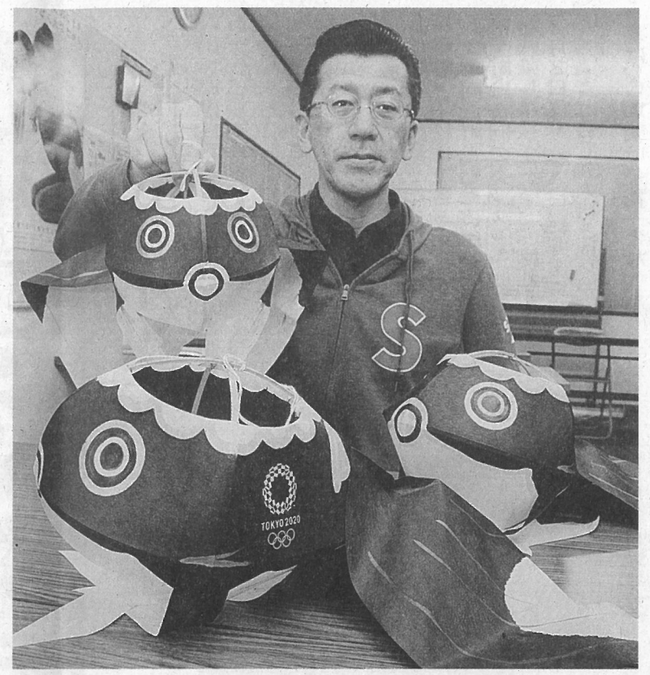
東京2020公式ライセンス商品

藍色の五輪金魚ちょうちん

柳井市の老舗文具店

木阪賞文堂が企画製作

伝統工芸品コレクション 山口県で唯一の商品化、一体5500円



東京五輪・パラリンピック組織委員会はこのほど、東京2020公式ライセンス商品「伝統工芸品コレクション」の商品化を、47都道府県で達成したことを発表。このうち、山口県の商品は、柳井市中央3丁目の老舗文具店(有)木阪賞文堂(木阪泰之社長)が製作を担い、大会エンブレムと同じ藍色にした金魚ちょうちん「金魚ちょうちん(藍)」が選ばれた。

同コレクションは、世界に誇る日本の技術・文化・伝統を反映した高い品質の商品を届け、東京2020大会をいつまでも人々の記憶に残る大会にしようと、日本各地の伝統工芸品等を公式ライセンス商品化する取り組みで、経済産業大臣の指定を受けた「伝統的工芸品」、都道府県・自治体が指定した「伝統工芸品」、これらの技術や文化を継承している「地域特産品」を対象としている。2019年3月13日から、第1弾として東北被災3県の商品販売を開始し、21年2月10日の第19弾で全47都道府県の商品化を達成した。商品合計数は104品目303商品(うち、中国・四国地区は12品目22商品)。

木阪賞文堂が手がけた「金魚ちょうちん(藍)」は、コレクション第18弾として、昨年12月下旬から発売されている。

このコレクションに山口県からの申請がなく、民芸品である金魚ちょうちんでも申請ができることを知った同社が昨年7月から企画をスタートさせた。

通常は赤い金魚ちょうちんだが、東京2020大会の藍色をモチーフにした特別品(全長50センチ、直径18センチ)。和紙に染料の藍色を塗り、その上からマークを印刷するなど趣向を凝らした逸品とした。商品の左上側面にも大会エンブレムとTOKYO2020、五輪マークを入れ、さらに目のふちやひれの模様部分はメダルと同じ金色で塗っているのも特徴となっている。地元職人の協力も仰ぎ、昨年11月にデザインが承認されたという。

自身、聖火ランナーに選ばれ、5月14日に山陽小野田市のコースを走るという木阪社長は「国内外の人に柳井の金魚をアピールしたいと企画した。試行錯誤して手がけた商品。地元の職人さんの協力があってこそで、通常の金魚より約3倍の製作期間がかかる。今年の夏は金色の装飾をあしらった気品ある金魚ちょうちんを美しく彩っていただければ」と呼びかけていた。

販売価格は、1個5500円。大会の公式オンラインショップや同店でも注文できる。問い合わせ先は、木阪賞文堂(☎0820・22・0150)。

(写真は大会エンブレムなどをあしらった藍色の金魚ちょうちんを手にする木阪社長)

林友樹菜さんが最優秀

田布施中美術部3年 地球環境を考えた作品を描く

田布施町立田布施中学校(濱田匡弘校長、386人)3年で美術部副部長の林友樹菜さん(14)が、令和2年度県土緑化運動ポスター原画コンクール中学生の部で、最高賞となる最優秀(知事賞)に輝いた。林さんは4月27日、同校美術部顧問の貞石紗矢香教諭とともに町役場を訪れ、東浩二町長に受賞報告した。

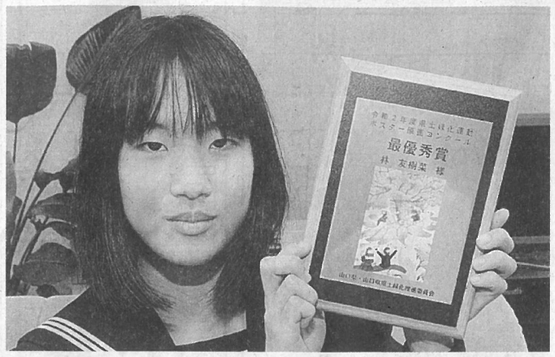
県と県県土緑化推進委員会が主催し、「緑化」をテーマにしたこのコンクールは、県内の小中学生と高校生を対象に実施。134点の応募があり、最優秀3点、優秀9点、優良16点を選出。表彰式は、4月22日に県庁で行われた令和3年度県緑化関係表彰式の席上であった。同校生徒が最優秀になるのは今回が初。

1年生だった昨年2月から制作づくりに励み出し、約半年かけて完成した作品。林さんは「地球から生えている巨木や女の子がスケッチしている絵は、地球にさらに緑が増えてほしいという想いを込めて描いた。植木鉢とジョウロを持つ男の子は、今の美しい自然を後世に残すイメージを表し、うさぎやアライグマ、ネコといった動物も描くことで、動物にとっても緑あふれる環境が大切であることを表現した」とし、「植物「コスモスの花びら」の美しさが伝わるよう、画面全体に鮮やかな色調を多く使い、立体感が出るように陰影を丁寧に描いて仕上げた」と作品づくりへの思いを語る。

初めての応募で最優秀に輝いたことについては「地球が地球に見えるように描くのがとても難しかった。新型コロナの影響で描けない日もあったが、頑張って描いた作品で、周りの人も喜んでくれて、すごくうれしい」と笑顔をこぼす。

林さんは「将来は美大を経て、美術の世界へ進みたい」と語る一方、「今回の原画コンクールでは最優秀だったが、愛鳥週間ポスターコンクールでは入賞だったので、今年は愛鳥で最優秀が取れる作品を描きたい」と意欲を見せている。

貞石教諭は「林さんは美術部(生徒49人)の中でも様々なことに挑戦している生徒の1人。今回の作品は一生懸命、丁寧に絵を描いており、林さんの情熱が込められている」、東町長も「とてもすばらしいく、印象に残る作品ですね」とたたえた。



(写真上は原画入りの盾を手にする林さん。下は貞石教諭とともに東町長に受賞報告をした林さん=中央=)

柳井市内の下水溝清掃

柳井市内で実施する「下水溝清掃」の日程は次の通り。

【柳井・伊保庄・余田地区】

《5月23日(日)》

南中開作、東土手、新天地、山根、山根西、忠信、広瀬、一丁田団地、北町、新市六、新市中、新市三、天神二、天神北、天神南、南浜、東大才、西大才、みずほ、柳町、スイートレジデンス柳井駅前、東樋の上、西樋の上、中塚、箕越東、コープ柳井、箕越南、ヴィークス柳井駅南、グランビュー戸側、土穂石、西向地、西向地、西田布路木、今

オマーン国の魅力を紹介

17日まで やない西蔵 25年前に旅した思い出を写真など

柳井市でアトリエKiBiを主宰する檜垣圭子さんが、アラビア半島のオマーン国を旅した際に出会った人々の魅力を写真と絵で紹介する展示会「オマーンの記憶~25年前の旅の思い出~」が現在、柳井市古市、やない西蔵ギャラリーで開かれている。17日まで。

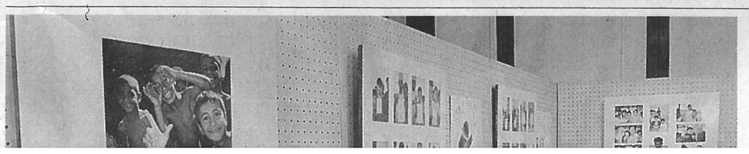
檜垣さんによると、オマーンへ行くきっかけとなったのは、柳井図書館で出会った1冊の本「アラブの人々(クウェートに住んだ経験より)」だった。分かりやすく、とても面白かったことから、著者の前川雅子さん(当時、千葉県在住)に手紙を送り、その後も交流が続いたという。そして3年後、前川さんの夫が、オマーンへ行くこととなり、「ビザが出るので、来ませんか」との誘いを受けたのが、旅をする経緯だったという。1997年の出来事だった。

日本から乗り換えを含め、約17時間の長旅。滞在期間は、約3週間。現地では、前川夫妻の案内で土産物店や野菜市場、魚市場、砂漠キャンプなどを訪問。魚釣りに同行した際、漁村の子供たちと仲良くなり、似顔絵をプレゼント。この話題は現地の人々へと広がり、滞在中は大人も含め、約60人の似顔絵を描いたという。

今回の展示会では、滞在中に撮影したスナップ写真をジャンルごとにパネル16枚(A1サイズ、1枚につき10~20枚の写真を装飾)で飾り、そのそばには当時のエピソードを絵と文で紹介している。

また、オマーンをイメージしたアクリル絵(B1サイズ)とアクリルで描いたアラビア半島の地図(A1サイズ)を各1枚展示。

今回の展示会は、オマーンから帰国後に製作し、オマーンとの交流がある広



柳井市体育協会

コロナで

柳井市体育協会(井朗会長)は、度総会の中止した。

例年5月中旬にかけ、総会事業・決算報告計画・予算案を議しているが、ロナ感染拡大

灯の揺
春の子
好きだ
今年ま
踏み入
リハビ
春深し
黄砂く